

アリ、形小クシテ穂ヲナシテ生ズ、其根樹皮ニ生ジ、石上ニナシ、共ニ花後實ヲ結ブ、蘭莖ニ似テ小ナリ、九州地方ニ生ズル者莖長ク、葉花モ又大ナリ、

集解 麥斛ハムギラント呼者ナリ、一名イボラン、土州マメラン、勢州朽木ニ生ズ、一根一葉根ハ麥粒ノ如シ、淡綠色、葉ハ石斛ヨリ短小ニシテ光リアリ、六月花ヲ開ク、白色形最小シ、雀髀斛ハ花戸

ニテバクコクラント呼ブ、一名オサラン、紀州熊野山中ニ生ズ、根長サ七八分、濶サ三分許、並ビ連ルコト十餘ニシテ、箴ノ形ノ如シ、當年ノ新根上ノミニ二葉ヲ生ズ、形石斛ヨリ大ナリ、六月花ヲ開ク、形色石斛ニ同シテ小ナリ、

増、花戸ニタウセキコクト呼ブ者アリ、莖短ク葉圓ニシテ厚ク莖モ太シ、花尋常ノモノヨリ大ニシテ白色ナリ、唐種ト云ヘドモ、出雲隱岐等ニ多ク産スト云、一種花戸ニ銀邊ノモノアリ、莖葉共ニ瘦小ナリ、ヘリトリノセキコクト云フ、其他四季ザキ黄花セキコク、キクザセキコク、マルバセキコク等アリ、品類甚多シ、

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥典藥

伊賀國廿三種略 中 木斛夜干各十斤、伊勢國五十種略 中 木斛廿斤、伊豆國十八種略 中 木斛三

斤、石斛十一斤、美濃國六十二種略 中 石斛七十斤略 下

〔出雲風土記意字郡〕凡諸山野所在草木略 中 石斛

〔一話一言四十一〕石斛

浪華の近藤正齋重藏名守重、御己卯臘月十五日發の書簡に、此比傳承候へば、京攝ともに石斛至て流行、一根七八金に至り候由、摺物入手則呈上候其文如左

百川子海 中略

こ、に石薺と名づくる小艸あり、閑雅の逸物にして、暑地なきも、寒暖土地の嫌ひもなく、作り樂しむに、いとやすふして、愛するの人多し、近き比やんごとなき御たちにも、數品の石薺を集めた